

# 長期自然体験が小中学生の夢への関心に及ぼす影響

中村 友亮 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)  
指導教員 黒澤 毅

キーワード: 長期自然体験, 小中学生, 夢への関心

## 1. 序論

現在の日本の若者・子どもたちは、諸外国と比べて「自尊感情」が低く、子どもたちが将来への夢を抱けない(文部科学省, 2014)という報告がある。嶋田(2009)は、自尊感情高群はポジティブな目標意識を持ち、将来の希望が高い者はポジティブ感情が高く、そして、目標意識の高い者は明るい時間的展望を持ち、将来に向けて積極的に行動する傾向があると述べている。

これまで触れたことのない物に触れ、その存在を認める経験を積むことができる長期自然体験によって、自身が自己のよさや可能性に気づき、自尊感情が高まる。そして、明確な目標を持って活動に取り組むことができれば、夢への関心に影響を与えるのではないかと考える。

そこで本研究は、長期自然体験が小中学生の夢への関心に及ぼす影響を自尊感情と目標意識の関係から明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

【対象者】2014年8月16日～25日(9泊10日)に実施された0自然体験事業に参加した小学4年生から中学1年生の8名を対象とした。尚、プログラムは、ハイク、シュノーケルなどを行いながら島を1周する移動型キャンプを行い、キャンプ終盤に限られた食料を使用したサバイバルキャンプ体験を伴うものであった。

【調査方法】自尊感情調査は、東京都教職員センター(2011)が作成した「自己評価」、「関係の中での自己」、「自己主張・自己決定」を用いた(3因子22項目)。目標意識調査は、新見(2008)が作成したキャリア尺度のうち、「将来設計」、「意思決定」の計21項目と筆者が独自に作成した夢に関しての自由記述式の質問項目を加えたものを作成して用いた。また、キャンプ中の変化をみるために振り返りシートを筆者が独自に作成して用いた。

【調査時期】調査は、キャンプ前(pre)、キャンプ後(post)の計2回実施した。また、振り返りシートは、キャンプ中、毎日の振り返りの時間に計7回実施した(表1)。

表1: 調査時期

	キャンプ前(pre)	キャンプ中	キャンプ後(post)
自尊感情について	○	×	○
目標意識について	○	×	○
振り返りシート	×	○	○

## 3. 結果と考察

1) 自尊感情因子得点の変化を検討するためにWilcoxonの符号付順位検定を行った結果、pre-post間の「関係の中での自己」に有意な傾向がみられ( $z=-1.81, p<.10$ )、得点は向上した(表2)。参加者は新しい友達、スタッフとの長期的共同生活から、仲間のために魚を捕ることや、仲間のために料理をすることを通して、自分が周りの人の役に立っていることや、周りの人の存在の大きさに気づいたことで、「関係の中での自己」に影響を及ぼしたと考える。

表2: 自尊感情因子得点における中央値と順位総和

因子	N	pre		post		z
		M	(T)	M	(T)	
自己評価・自己内容	8	26.50(14.50)	28.50(21.50)	26.50(14.50)	28.50(21.50)	-0.49 n.s.
関係の中での自己	8	25.00(2.00)	26.00(19.00)	25.00(2.00)	26.00(19.00)	-1.81 †
自己主張・自己決定	8	24.50(5.00)	25.00(16.00)	24.50(5.00)	25.00(16.00)	-1.18 n.s.

M: 中央値 T: 順位総和 有意差なし n.s. † $p<.10$

2) 目標意識因子得点の変化を検討するためにWilcoxonの符号付順位検定を行った結果、pre-post間の「意思決定」に有意な差がみられ( $z=-2.37, p<.05$ )、得点は向上した(表3)。キャンプの活動内容や共同生活では、参加者がやりたいことを決める場面が多くあったことから、「意思決定」は向上したと考える。

表3: 目標意識因子得点における中央値と順位総和

因子	N	pre		post		z
		M(SD)		M(SD)		
将来設計	8	35.88(4.26)	35.50(4.20)	35.88(4.26)	35.50(4.20)	-0.68 n.s.
意思決定	8	34.50(3.86)	39.25(2.81)	34.50(3.86)	39.25(2.81)	-2.37 *

\* $p<.05$

3) 自尊感情得点が向上している対象者6名の目標意識因子得点の「意思決定」が向上した。キャンプの様子から「自ら決断していた」ことや「自己主張が多い」ことから、自己評価や自信が身についた参加者は、積極的に活動へ取り組み、目標意識の中の「意思決定」が向上したと考えられる。また、「キャンプ体験が自分の夢にどう活かされるか?」という質問に対して、「親のありがたみがわかり、将来いい人になれる」、「協力や自然、努力などを学べたからいろんなことに活かしていけると思う」、「将来自分が生きていくときの自信になるから」と夢に対しての具体的な記述は得られず、漠然とした将来に対する明るい展望を見通していることがわかる記述がみられた。

## 4. まとめ

長期自然体験では、小中学生の自尊感情のうち、「関係の中での自己」と目標意識のうち、「意思決定」に影響を与えた。また、自尊感情が向上した小中学生の目標意識も向上した。しかし、自尊感情と目標意識が向上したことにより、夢への関心に影響を与えたとは言い難く、今後は、参加者の人数も考慮した上で、検討する必要がある。

## 引用・参考文献

- 文部科学省(2014): 現代の子どもの成長と徳育をめぐるとの今日的課題  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shoutou/053/gaiyou/attach/1286155.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shoutou/053/gaiyou/attach/1286155.htm)  
 最終アクセス: 2014年12月2日  
 嶋田弥々(2009): 自尊感情および目標意識が失敗経験後の比較行動・向上心の生起に及ぼす影響: pp. 53 - 54  
 新見直子(2008): 中学生版キャリア意識尺度の開発, 広島大学大学院教育学研究紀要, 3(57): pp. 225 - 233  
 東京都教職員センター(2011): 自尊感情や自己肯定感に関する研究, 東京都教職員研修センター記要, 12